小説における発話と行動の配列パターンから見る相互行為の表現手法

四宮彩夏（立命館大学学部生）　岡本雅史（立命館大学）

1. はじめに

日常会話などの現実世界で行われる相互行為では，発話や身振り，行動が同時に生じることが普通である．しかし，小説は作者によって作られた虚構世界であり，その世界の中にいる語り手が見聞きしたことを語ることにより物語が進む．状況を見聞きする語り手が語るものになるため，登場人物それぞれの発話や行動を同時に描くことができない．したがって，日常会話のような現実で行われる相互行為とは異なり，台詞と地の文の描写は線条的にならざるを得ない．

日常会話の研究は常に増え続けており，順番交替など参与者の相互行為の有り様について多くのことが明らかになってきた．しかし，小説内で行われる架空の登場人物たちの相互行為がどのように線状的に表現されるかについての研究は数少ない．小説に関する研究は語り手や視点の分析，文末表現を含む小説の表現技法についてのものや，時代の移り変わりによる小説内の登場人物の描かれ方を社会的に見たものなどが大部分を占めている．また，配列パターンについての研究は AI を用いた小説自動生成に関する研究が主である．

そこで本研究では，小説内の登場人物たちの会話場面から台詞とその前後の地の文を抽出することにより，登場人物たちの発話と行動・様子の描写などがどのように配列されているかのパターンを調査し，架空の人物が行なっている相互行為としての会話がどのように文章として表現されているかを明らかにすることを目的とする．

2. 関連研究

小説内の配列パターンを意識した研究は，AI を用いた短編小説の自動生成の研究が大部分を占めている．松原ら(2013)によれば，星新一の短編小説に出てくる単語を装飾語と単語のペアにして並べ，その表をずらすなどの操作を行うことが短編小説の自動生成のヒントになるとし，高木ら(2014)は，同様に短編小説の発話者を入れ替えることにより，会話を中心とした超短編小説のシナリオ自動生成に必要な発話特定法を明らかにした．また，オチに至る物語構造の分析をするために古典的なプロット分析を利用してオチパターンの抽出を行い，各テーマにおける特徴的なパターンの抽出に成功したものもあった(豊澤ら，2019).

小説の語り手に関する研究について，廣野(2005)では，語り手を「一人称の語り」「二人称の語り」「三人称の語り（全知の語り手）」の三種類に分類している．一人称の語りでは，語り手が物語世界の中に存在し，「私」という観点から物語世界を眺めて語り，三人称の語りは，語り手が物語の外側にいる存在であり，「私」が物語内のどこにもいないに等しいものとされ，すべての登場人物を三人称で指し示しながら語るとされている．さらに，ル＝グウィン(2021)では，三人称の語りの中に「三人称限定視点」があるとしている．これは，視点人物が「彼」または「彼女」であり，その人物が物語を聞かせるとともに，物語の中心人物として関わっているものである．語り手に見えること，分かること，話せること以外は読者は知ることができないという点で一人称の語りと性質上一致するとされているが，作者とその人物との関係が異なっていることから，一人称視点と三人称限定視点は別のものだと指摘されていた．

以上のように，小説内の配列パターンを分析したものは，大部分が小説の自動生成の研究であることや，いずれも同一作者の作品で分析されており，地の文における発話と行動部分に関する一般的な配列パターンは未だ明らかではない．そこで本研究では，一人称小説と三人称限定視点で描かれた小説を用い，小説内の配列パターンを明らかにすることを試みる．

3. 分析

3.1 分析手順

本研究では，小説内の二者間の会話部分において，一人称小説と三人称小説を用いて台詞と地の文（発話，様子・行動の描写）が連続する部分を抽出し分析することにより，地の文と台詞の配列パターンを見出す．さらに見出した配列パターン内での台詞と地の文の時間的関係を分析し，最後に配列パターンと時間的関係について，語り手の視点による比較を行う．

3.2 分析対象

2020 年から 2022 年の間に「全国書店員が選んだ いちばん！売りたい本 本屋大賞[1]」に選出された 30 作品の中から，一人称小説，三人称小説のそれぞれ 5 冊を分析対象とした．なお，当該期間の選出作品には，三人称視点の全知の語り手を用いた小説がなく，すべて三人称限定視点のものであった．分析データとしては，二人の登場人物の会話場面で地の文と発話が連続している部分を本文 1 ページ目から順に 10 箇所ずつ抽出し，これを用いた．

3.3　分析単位

本研究において，小説内に描かれた二者間の会話部分のうち，①視点人物と登場人物一人の会話である，② 2 ターン以上連続して二人の会話が描かれている，という 2 つの条件を満たす部分を〈会話セグメント(S)〉とする．ただし，本研究では小説内の地の文と台詞の関係性に着目するため，発話が連続し，地の文が描かれていない部分は対象外とした．さらに，三人以上の会話部分は発話者，地の文の描写の特定が難しく，確実ではないため対象外とし，二人会話に限定する．また，会話セグメント内にある地の文を高梨ら(2004)の日本語話し言葉コーパスにおける節単位認定にならい，並列節・条件節で区切った部分を〈ユニット(U)〉と呼ぶ．なお，台詞内に句点が 2 つ以上ある場合であっても，これは 1 つの〈ユニット〉とする．さらに，一人の人物が行う行為や発話のまとまりを〈チャンク(C)〉とする．

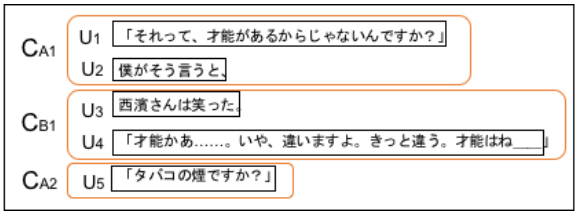

図 1．小説内構造における本研究での定義

3.4　分析方法

分析方法としては，まず，計 100 箇所の会話セグメント内に存在する地の文と台詞が連続する部分の各ユニット，チャンクに着目する．各ユニット，チャンクの台詞を「発話」，地の文を「行動・様子」と「心的状態」に分類し，頻出している配列パターンを見出し，視点ごとの比較を行う．

次に，「行動・様子」「心的状態」と表していた地の文の描写をそれぞれ，(a)視覚描写，(b)聴覚描写，(c)心的描写，(d)視聴覚描写の 4 種類に分ける．さらに台詞と地の文の間にどのような関係性があるかを調べるために，地の文から台詞，台詞から地の文の間の流れを時間的観点から考察する．前の文と後の文の間に時間的な前後差がある場合を「時間的連続」として「→」を付し，後ろの文が前の文に情報を付加していたり，付帯状況である場合は「▸」を用いて表す．この際，江原(2003)が示した基準を用い，「〜ツツ」，「〜ナガラ」が使われている場合も前後の文と「付帯状況・情報付加」の関係とする．「〜ナガラ」については，ナガラ節の事態が主節の事態から容易に予測され得ない事態であるときに限る．一方，「〜スルト」や，前の発話や動きに対して，反応を示した描写については「時間的連続」とする．また，(a)から(d)については，(a)は「渡す」，「頷く」などの目で見てわかる動作が描かれたもの，(b)は「話す」，「言う」などの聴覚を刺激する動作が描かれたもの，(c)は「不満に思って」や回想を表す文などの発話者の心の内が描かれたもの，(d)は「舌打ちする」，「笑う」，「ため息をつく」などの視覚・聴覚の両方を使うことにより情報を得る動作が描かれたものと定義し，分類した．

これらに基づき，地の文と台詞の構造にはどのような配列パターンがあるかを集計し，それぞれの特徴を分析する．なお，発話は基本的に鉤括弧内のものとするが，音声として出ていることが明らかなものに関しては，地の文でも発話とみなす．

4.　分析結果と考察

4.1　台詞と地の文の配列パターンの種類と頻度

視点人物を A，その対話相手を B と表し，生起頻度は小数点第 2 位で四捨五入する形で，台詞と地の文のユニットの配列の種類と頻度をまとめたものが図 2 である．全 412 ユニットのうち，「発話(A)から発話(B)」が 17.7%，「発話(B)から発話(A)」が 15.6%の順で高い頻度で描かれていた．また，台詞と地の文が連続するユニットは，全体の 54.5%であり，その中では「発話(B)から行動・様子(B)」，「行動・様子(B)から発話(B)」の順で多く描かれていた．一方，視点人物 A の台詞と地の文が連続するパターンは，「発話(A)から行動・様子(A)」，「行動・様子(A)から発話(A)」の順で多く描かれていた．また，台詞から地の文，地の文から台詞の割合を比較すると，台詞から地の文が連続する場合が 30.4%，地の文から台詞が 23.9%

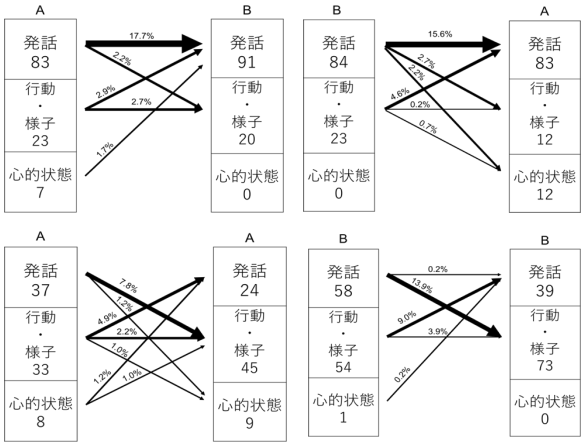

図 2．台詞と地の文の配列パターンの種類と頻度

[1] https://www.hontai.or.jp/about/index.html（最終閲覧日：2023 年 1 月 9 日）

となり，台詞と地の文が連続する場合では登場人物の発話の後に行動・様子や心的状態が描かれるパターンがやや多かった．

さらに一人称小説と三人称小説の比較を行うと，全体で共に多いパターンが「発話(A)から発話(B)」,「発話(B)から発話(A)」,「発話(B)から行動・様子(B)」であり，その他のパターンも多くの割合が両者で共通していた（図3）．しかし，「行動・様子(A)から発話(A)」の割合は，一人称小説が3.8%，三人称小説が6.1%となっており，三人称小説が一人称小説の2倍弱の割合で描かれていることがわかった．また，同一人物の発話が連続する場合は全体で三人称限定視点の「発話(B)から発話(B)」の1箇所しか存在せず，鉤括弧で囲まれた発話の次に，地の文として発話が描かれる形で連続していた．

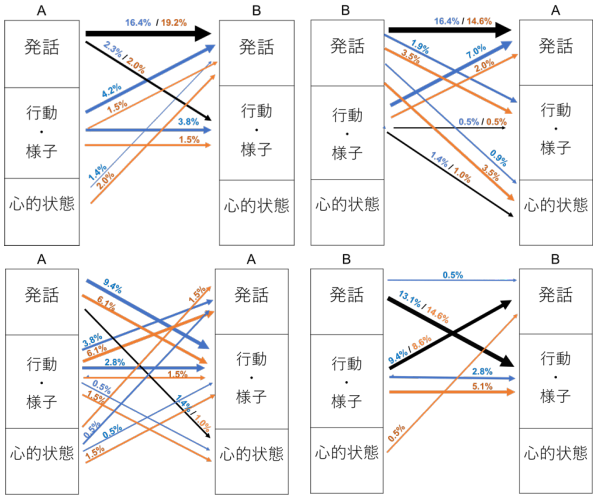

図3．一人称小説（青字）と三人称小説（橙字）の比較Ⅰ

全体を見たときに，「発話から発話」のパターンが一番多く描かれていることから，現実世界で行われている発話の順番交替が，小説内の作者が作り出した虚構世界であっても同様に描かれていると言える．これはSacks(1974)が示した，いかなる会話であっても，発言者の交替は繰り返されるということに則っていると考えられる．また，台詞と地の文が連続するパターンで多いものが「発話(B)から行動・様子(B)」，「行動・様子(B)から発話(B)」であることから，小説内の視点人物の対話相手であるBの描写が多く描かれていることが明らかになった．これは視点人物の認知を反映することにより，読者が物語をより理解しやすくすることを目的としているのではないかと考える．

さらに，対話相手の描写が連続する場合には，心的状態への言及が明らかに少なく，連鎖の種類が減っていることから，視点人物から見た対話相手の描写はパターンが限定されているのではないかと考えられる．今回の分析では「発話(B)から行動・様子(B)」，「行動・様子(B)から発話(B)」が一般的な形だといえるだろう．一方で，視点人物の描写が連続する場合は，描写のパターンが限定されておらず，様々な配列が可能になると考えられる．

また，一人称小説と三人称小説を比較したとき3倍上の頻度の差が見られたのは，(i)「行動・様子(B)から発話(A)」，(ii)「発話(B)から心的状態(A)」，(iii)「心的状態(A)から発話(A)」，(iv)「心的状態(A)から行動・様子(A)」，(v)「行動・様子(A)から心的状態(A)」，の5つの連鎖パターンである．一人称小説の方が三人称小説よりも頻度が大きい(i)を除いて，全て三人称小説の方が一人称小説よりも多い頻度になっている．しかし，(iv)と(v)はいずれも地の文の中での連鎖であるため，台詞と地の文の連鎖関係に着目すると，一人称小説では対話相手の行動や様子が原因となって語り手となる視点人物が発話を行う傾向（=(i)）が強く，三人称小説では対話相手の発話に対する内的反応として視点人物の心的状態が描かれ（=(ii)），その心的状態を背景とした発話が描かれる（=(iii)）のではないかと考えられる．このことから，一人称小説では，視点人物=語り手として，自身の発話の原因となる対話相手の行動や様子を描くことで自身の発話の動機づけを示す傾向があり，三人称小説では戯曲のような台詞のみの連鎖よりも，登場人物間の発話交替のあいだに視点人物の心的状態を挟むことによって，客観的な描写でありつつも読者を自然と視点人物に共感させる工夫があるのではないかと推察される．

4.2　時間的観点から見る台詞と地の文の連鎖関係

時間的観点から見た台詞と地の文の連鎖関係を表1に示す．なお，地の文と台詞の間に時間的な前後差があるとも，付帯状況であるとも捉えられる場合は，どちらにもカウントした．連鎖関係が「時間的連続」となるもので最も多いのは，「視覚描写(B)→発話(B)」であり，これは前の発話に付随した行動の後に，別の発話を始めているパターンが多かった．その次に，「B視覚描写 →発話(A)」，「発話(B)→心的描写(A)」の順に多く描かれていた．これは視点人物Aが対話相手であるBの行動を見てそれに反応し，発話をするというパターンや，Bの発話を聞き，Aが反応を心で示すというパターンが大部分を占めていた．一方，連鎖関係が「付帯状況・情報付加」となる場合に最も多かったのが「発話(B)▶聴覚描写(B)」，次に「発話(A)▶聴覚描写(A)」である．このパターンの全てが発話後にその発話の説明を加える形で描かれているものであった．その次に多く存在したのが「発話(B)▶視覚描写(B)」である．5番目に多く描かれていた「発話(A)▶視覚描写(A)」もこれと同じパターンである．これは台詞と地の文の間に時間的な前後差があるか，付帯状況・情報付加であるかが判別できないものも多く存在した．しかし，その中でも判別できたものはすべて〈～ナガラ＋聴覚描写〉で描かれていた．

表1．時間的観点から見る台詞と地の文の連鎖関係

頻度順	時間的連続（→）	頻度順	付帯状況・情報付加（▶）
1	視覚描写(B)→発話(B)(17)	1	発話(B)▶聴覚描写(B)(22)
2	視覚描写(B)→発話(A)(10)	2	発話(A)▶聴覚描写(A)(16)
3	発話(B)→心的描写(A)(9)	3	発話(B)▶視覚描写(B)(13)
3	聴覚描写(B)→発話(B)(9)	4	視覚描写(B)▶発話(B)(7)
5	聴覚描写(B)→発話(A)(8)	5	発話(A)▶視覚描写(A)(6)

一人称小説と三人称小説の比較では，地の文と台詞の連鎖関係が「時間的連続」となる場合，一人称小説では地の文から台詞の流れになっているものが上位を占めていたが，三人称小説では対話相手の発話から登場人物の心的描写の流れのものも多かった．一方，台詞と地の文の連鎖関係が「付帯状況・情報付加」であるときに関しては，「発話 ▶ 聴覚・視覚描写」となる流れがほとんどであり，視点の違いは見られなかった．また，時間的連続の場合は，同一人物の描写が連続する場合と，異なる人物の発話や行動・様子が連続する場合の 2 パターンが存在する．このとき後者は，相手の発話や，行動・様子を認知してから，それに対しての反応を示すパターンであると言える．また「付帯状況・情報付加」である場合は大部分が同一人物の台詞と地の文が連続する構造で描かれていた．

表 2．一人称小説と三人称小説の比較 II

時間的連続（→）	一人称小説	三人称小説
1	視覚描写(B)→発話(A) (8)	視覚描写(B)→発話(B) (10)
2	視覚描写(B)→発話(B) (7)	発話(B)→心的描写(A) (7)
3	聴覚描写(B)→発話(A) (6)	聴覚描写(B)→発話(B) (5)

付帯状況情報付加（▶）	一人称小説	三人称小説
1	発話(A)▶聴覚描写(A) (12)	発話(B)▶聴覚描写(B) (11)
2	発話(B)▶聴覚描写(B) (11)	発話(B)▶視覚描写(B) (6)
3	発話(B)▶視覚描写(B) (7)	発話(A)▶聴覚描写(A) (4)

4.3.　分析から見るパターン化

分析から台詞と地の文が連続するときの基本的な配列パターンは大きく，①「発話(B) ▶ 聴覚描写 or 視覚描写(B) →発話(A or B)」，②「発話(A) ▶ 聴覚描写 or 視覚描写(A) →発話(A or B)」の 2 つに分けられると考えられる．また，チャンク単位では図 4 に見るように 4 つのパターンと見ることも可能である．そして，ユニットからチャンクへと連続するとき，時間的観点から見ると「時間的連続」となっており，チャンク内でユニットが連続するときは，「付帯状況・情報付加」となることが多いと考えられる．

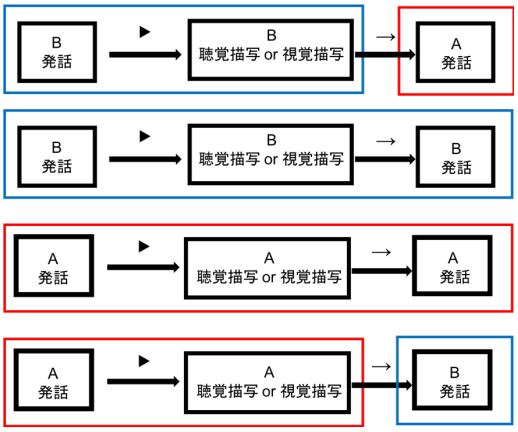

図 4．台詞と地の文が連続する際の配列パターン

5.　おわりに：まとめと今後の課題

分析の結果，実際に現実世界で行われる相互行為と同様に，虚構世界の中の登場人物であっても二者間の発話交替が最も多く描写されることが明らかになった．また，小説内には視点人物の対話相手についての発話や行動・様子などの描写が多いことや，発話後に行動・様子などの描写が地の文に描かれることがわかった．このことから，発話と地の文の行動・様子の描写が連続するとき，大きく分けて「発話(B) ▶ 聴覚描写 or 視覚描写(B) →発話(A or B)」，「発話(A) ▶ 視覚描写 or 聴覚描写(A) →発話(A or B)」の 2 パターン（チャンク単位では 4 パターン）が導き出された．

本研究では，三人称小説の中でも三人称限定視点のものと一人称小説を比較したため，それほど大きな差は見られなかった．三人称限定視点は，一人称視点と類似している部分があるため，三人称小説の全知の語り手を用いた小説と比較すれば，より大きな差が見られた可能性がある．また，分析対象を小説冒頭から 10 箇所の会話セグメントに限定したため，小説の後半で起こっているかもしれない変化については触れられていない．今後は扱う小説の種類と数を増やして分析することにより，種類ごとの配列パターンを見出したい．

謝辞　本稿の執筆にあたって，ご助言をいただいた立命館大学の西岡亜紀先生，千葉大学の伝康晴先生，東京工科大学の榎本美香先生，ならびに UB ゼミと EDO 研の皆様に心より感謝いたします．

参考文献

江原由美子 (2003). 付帯状況と逆説 岡大国文論稿/岡山大学言語国語国文学会, **31**, 199-208.
廣野由美子 (2005). 批評理論入門-「フランケンシュタイン」解剖講義 中公新書.
ル＝グウィン，アーシュラ・K. (著), 大久保ゆう (訳). (2021). 文体の舵をとれ ル＝グウィンの小説教室 フィルムアート社.
松原仁，佐藤理央，赤石美奈，角薫，迎山和司，中島秀之，瀬名秀明，村井源，大塚裕子 (2013). コンピュータに星新一のようなショートショートを捜索させる試み 人工知能学会全国大会論文集, **27**, 2D1-1.
Sacks, H., Schegloff, E. A., and Jefferson, G. (1974) A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation, *Language*, 50 (4), 696-735. (西阪仰 (訳). 2010. 『会話分析基本論集—順番交替と修復の組織』, 京都: 世界思想社, pp. 155-246.)
高木大生，佐藤理央，駒谷和範 (2014). 会話を中心とした超短編小説の自動生成 人工知能学会全国大会論文集, **28**, 1C3-OS-14B-3.
高梨克也，内本清貴，丸山岳彦 (2004). 「日本語話し言葉コーパス」における節単位認定(Version1.2) [https://clrd.ninjal.ac.jp/csj/manu-f/clause.pdf] (閲覧日 2022 年 12 月 19 日)
豊澤修平・村井源 (2019). 星新一のショートショートにおける SF ジャンルのオチ構造分析 人工知能学会全国大会論文集, **33**, 3L3-OS-22a-03.